

9 下市町新^{あたらしみ}住のオカリヤ（無形民俗）

所在地 吉野郡下市町新住

保持団体 新住八幡神社宮座講

オカリヤ（御仮屋）は、下市町新住の氏神である八幡神社の秋祭りの1ヶ月前に、その年のトヤの庭先に神の神霊を迎えるために建てるものである。

オカリヤは、4本の竹を四方に立ててこの先端を集めて屋形にし、桧葉を葺いて組んだ竹で押さえる。周囲には低い竹垣と小石を並べ結界とし、正面に鳥居を建てる。中心の竹筒に八幡神社で神移しをした榊を供え、トヤは宵宮までの1ヶ月間、毎朝吉野川で汲んだ水を供給し、本宮の朝にこの榊を持って八幡神社への渡御の行列に参列する。

新住の宮座は、八幡神社の祭祀組織としてトヤ受けに始まり1年間神社の給仕をするものである。元々は左座と右座があり、戦前はオカリヤは両座のトヤ宅でそれぞれ作られていたが、現在は垣内廻りで氏子が班順にトヤを勤めている。

新住のオカリヤは神霊を1ヶ月間、トヤの自宅に招じて祀る宮座による古い民間の信仰形態を残しており、県南部を代表するオカリヤの行事として貴重である。

